

# 緑のセンターだより

NO.94平成19年1月1日発行

発行元：（財）札幌市公園緑化協会

豊

豊平公園緑のセンター

メギ科 *Nandia domestica*



ナンテンは難を転ずるに通じることから縁起の良い木とされ、昔から安産や祝い事に葉を飾りとして用いたり、正月を飾る松竹梅の寄せ植えに使われたりします。実は南天実という生薬として咳止めの薬に、また葉は南天という生薬として健胃、解熱、鎮咳などの作用がある

# 南天

といわれています。

ナンテンの原産地は中国、インド、マレーシア、日本に自生しており、日本では関東以南の西南暖地に自生しているものもありますが、多くは庭木や生け垣などとして使われています。東洋的な植物でありながら、洋風庭園にも取り入れられているところも多く見られます。

メギ科ナンテン属 1 属 1 種の常緑低木で、高さ 1.5～3m で、多くの枝を出しほとんど分枝しません。

葉は長い柄があり、大きな羽状複葉で、秋には紅葉して風雅ですが、葉身部が落ちて葉柄のみが残り、箒状になることもあります。6～7月の頃、枝先に大型の円錐花序を出し、6～7mmの白い花を多数咲かせます。果実は球形の液果で、10～11月頃には真っ赤に熟して美しく鑑賞できます。種子はほぼ球形で、5～6mm で通常 1 個の実に 2 個の種子が入っています。

ナンテンは栽培による変異も多く、変種には葉が細く糸状になるキンシナンテン (*var.capillaris*) や実

の白いシロナンテン (*var.leucocarpa*)、実が淡紫色のフジナンテン (*var.porphycarpa*) などがあります。

ナンテンは足利時代頃から造園や生け花に使われ、江戸時代にはすでに多くの園芸品種が栽培されていました。現在でも多くの園芸品種が栽培されており、イカダナンテン、オタフクナンテン、ササバナナンテンなどがあり、前述のキンシナンテンには多くの葉芸があり、珍奇なものも多くあります。

ナンテンはただ庭木として植栽する場合は、水はけや水保ちがよければ日当たりの悪いところでも育

ちますが、薬用として実を収穫したり、実を鑑賞したり生け花の材料にしたい場合は日当たりの良い肥沃なところで育てます。

本州では、開花時期が梅雨時に重なるので、雨よけや人工授粉などすることもあります。最近は草物の寄せ植え盆栽や苔玉などにもよく使われているようです。

ナンテンは温暖地の植物ですので、道南から伊達の範囲では越冬しているものもありますが、一般的には北海道での露地栽培は難しいようです。しかし盆栽づくりや鉢植えで

楽しむことができます。

鉢植えでは夏の間の肥培管理を十分にしておき、冬期間あまり暑くない状態で保温・保護できれば栽培は可能ですが、実を成らすまでは難しいようです。

(S.Y.)

## 南天の家紋のいろいろ



三つ葉南天



丸に三つ葉南天



南天桐



対い南天



三つ違い南天



南天胡蝶

# 1月園芸作業

このコーナーの園芸作業は札幌地方での目安です。ここに掲載した以外の作業もたくさんありますので、ご不明の点などは緑の相談までお気軽にお問い合わせください。

緑の相談受付 10:00~12:00、13:00~16:00  
 ☆豊平公園 811-9370 月曜以外毎日  
 ☆百合が原 772-3511 水・木・土・日  
 ☆平岡樹芸センター 883-2891 冬季閉鎖中

明けましておめでとうございます。

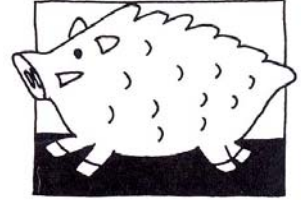
## お正月特集 亥にちなんだ名の植物

亥は十二支の終わり、子に始まる万物の活動の周期はこの亥で休息期に入ります。1年では11月の立冬から12月の大雪の前日まで、また1日では午後9時から11時までを指します。

説文解字によると亥は男女、つまり陽と陰を表し、「亥は核なり万物を收藏す」とあり、核はタネのこと、万物の大本、タネは厳しい冬を越して春を迎え、勢いよく新芽を出す源、エネルギーそのものを示します。

亥は豚の骨格を表す象形文字で、イノシシ、ブタが連想されます。

亥年にちなむ植物は数少なく、ほとんどが英語の Pig、Sow、Hog などの直訳によるものが多く、外来種が多くなります。





**ブタイモ(クワイモ)**

北アメリカ原産の帰化植物多年草。草丈1~2mのなり、地下部にイモ状の塊茎があり、戦時中家畜のエサにしたり、イヌリン(澱粉)の原料として利用された。

### ブタクサ

北アメリカ原産の1年生帰化雑草。明治初期に渡来、草丈1m 全体有毛。道端に群生していることが多く、幼苗はヨモギに似て葉は柔らかくて薄く、羽状に細かく裂け、花は雌雄異花です。和名は英名を訳したものです。日本全国に分布し、花粉症の原因にもなっています。



### Sow teat strawberry (エゾノヘビイチゴ)

ヨーロッパ原産の多年草。小さな果実がブタの乳首に似ているため。



### ブタノマンジュウ(シクラメン)

冬の代表的な鉢花、シクラメンの別名。名前の由来は、イギリスで自生のシクラメンの球根を野生のイノシシが食べていたことから sow bread と呼ばれていました。明治17年にはじめてお目見えした際、直訳してブタノマンジュウと名付けられました。明治末年、歌人の九条武子さんがかがり火のように美しいと言ったことから、カガリビバナの名もありますが、現在はシクラメンで通っています。



### ブタナ(タンポポモドキ)

ヨーロッパ原産の多年草。昭和の初め牧草種子に混じって帰化した雑草。花がタンポポに似ていることからタンポポモドキの異名があります。フランスの俗名 Salde-de-pore(ブタのサラダ)によるもの。



### ブタノキ(シラカバ)

### ブタカンバ(タケカンバ)

樹木の俗称。由来は不明。

### 漢字名の異名に

### 猪の字がつく植物

ユキノシタ	猪母臍
ギシギシ	猪耳乃木
ダイナゴンアズキ	猪肝赤
ヤエムグラ	猪殃殃
ヤブガラシ	猪穢草
ウツボカズラ	猪籠草

## 園芸豆知識

### 《ハーディネスゾーン 植物耐寒ゾーン》

植物が寒さに対して露地栽培可能なゾーンのことで、特別な設備がなくても越冬できる目安になります。具体的には、ゾーン別に色分けした地図をもとに植栽する場所のゾーンNo. ①を知り、植栽したい植物のゾーンナンバー②を文献などで調べます。数字は1〜11（部分的にaとbに分けられている）に分類され、①②を比較して、①≤②であれば植栽可能となります。

札幌のゾーンNo. は6b ですので、-20.6℃〜-17.8℃のゾーンとなります。

ただ、このハーディネスゾーンNO. を記載している本や資料が少ないため、わからないものも多くあります。

日本の書籍でハーディネスゾーンが書かれているものは特に少なく、市販されている物であれば、アボック社の『日本花名鑑』がおすすめです。

それでもゾーンNO. がわからない場合がよくあります。その場合は、その植物の原産地を知るとおおよその目安をつけることが出来ます。

札幌では、中南米やアフリカ、東南アジア、オセアニアのものなどはほとんど屋外越冬できません。しかし、札幌は雪が多いため、雪の下は意外と暖かく、思ったより多くの植物を使うことが出来ます。これらの地域の物でも高山地帯原産のものなどは越冬できる場合もあります。

同じ家の敷地内でも北側と南側や、風の当たり具合などによる微気象の違いによって、植物の栽培条件も異なりますので、あくまでも文献や資料は目安として考え、あとは自身による経験が何よりのデータとなるでしょう。

NO.8の植物

NO.4の植物



## 緑の相談 Q&A

**Q.** 毎年暮れになると、立派なポインセチアを頂くのですが、飾って2〜3日経つと葉がしおれてきて、ついには落葉してしまいます。置き場所は日当たりの良い出窓に飾っております。落葉の防止策と、その後の手入れ方法について教えてください。また、観賞期間はどのくらい有るのでしょうか？（南区 Sさん）

**A.** 年の年末が楽しみですが、葉が落ちてゆく様を見ていると、残念ですね。毎回となるとプレッシャーを感じるようになりますね。

葉が落ちる原因として、次の事柄が考えられます。

- ①低温障害 生育適温は日中15〜25℃です。夜間10℃以下になると落葉します。したがって、夜の温度を確保します。
- ②過湿 常時鉢土が湿るのは良く有りません。根が傷み落葉します。乾いてから水やりを心がけます。
- ③弱光 鉢物を沢山置いている状態で採光不良では鉢土の温度の低下を招き落葉します。鉢間のスペースを十分に空け、日が当たるようにしましょう。
- ④草勢確保 草勢が劣ると落葉しやすくなります。1,500倍程度の液肥を月2回程度与えます。
- ⑤湿度不足 冬季は特に室内の空気が乾燥するで、霧吹きなどで保湿に努めましょう。

今回相談の内容から考えられる事は、出窓に置いてあり、夜間はカーテンの外側となっているようですので、①の低温の障害と思われます。温度のチェックと夜間はカーテンの内側に鉢を置くようにしましょう。

観賞期間は、手入れの仕方で多少異なりますが、おおよそ3月一杯が限度と思います。

